

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	松本情報工科専門学校
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門	自動車整備	夜・通信	2265	160	
	情報システム	夜・通信	1413	160	
工業専門	スポーツバイシクル	夜・通信	1994	160	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

URL: http://www.mirai.ac.jp/information/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	松本情報工科専門学校
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 理事（役員）名簿の公表方法

URL:<http://www.mirai.ac.jp/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2021.4.1～2025.3.31	経営・財務・企業関係 構築
非常勤	会社役員	2021.4.1～2025.3.31	経営・マーケティング
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	松本情報工科専門学校
設置者名	学校法人 未来学舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの作成過程は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務部長はシラバスのフォーマットを決めて雛形を学科長に配布する。これほどの学科も共通して記載すべき必須事項を含むものである。 2. 学科長はシラバスの作成を担当講師に依頼し、原則として担当講師が記入する。 3. 学科長は講師記載のシラバスを確認し、まとめたものを教務部長に提出する。 4. 教務部長は各学科のシラバスを確認し公表を行う。 <p>現在のシラバスは、次を必須項目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態 ・概要 ・企業連携の有無 ・実務経験のある教員科目の該当 ・授業計画 ・到達目標 ・成績評価の方法 ・成績評価の基準 <p>シラバスの作成は3月末までに行うこととし、新年度となる4月に公表するものとする。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページで公表</p> <p>URL: http://www.mirai.ac.jp/information/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(学則 第 20 条 各学年履修科目の習得認定、学生便覧 成績評価及び科目修得の認定に関する規定)</p> <p>履修認定は、シラバスに記載された「成績評価の方法」と「成績評価の基準」に基づき行われる。成績評価の方法は科目によっており、筆記試験、実技試験、レポート、課題、出席率、授業姿勢などの中から、適切な方法により多面的な評価を行う。評価は、S：秀、A：優、B：良、C：可、D：不認定の5段階である。適正な評価が行われているかは学科長が確認を行い、その上で評価をデータベースに登録している。</p> <p>各学生の学習成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAスコアは、S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点をポイントとして次の計算式に従って求める。不認定科目はD：0点である。</p> $\text{GPAスコア} = \frac{\text{各科目の(時間数または単位数} \times \text{ポイント)の合計}}{\text{履修時間または単位の総数}}$ <p>従って、GPAスコアは0.0～4.0の数値で表される。GPAの算出除外科目は設定しない。履修の途中中止は原則存在しない。</p> <p>GPAの導出は、成績が保存されているデータベースを用いており、その計算はデータベースの機能を用いて自動的に行われ、その結果学科ごとの一覧表を得ることができる。これにより、各学生が同学年の学科の中でどの位置にあるかを把握することが可能である</p> <p>あらかじめ設定した算出方法により GPA 等の数値を算出している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページで公表 URL: http://www.mirai.ac.jp/information/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の卒業の認定に関する方針は、本学の理念にあげてある、工学を実践する技術者として社会から期待される知識と技術を持ち、どのような職場でも歓迎される人格を兼ね備え、そして卒業要件を満たした者に専門士を授与することである。

卒業要件の認定は、原則全職員が参加する卒業判定会議において行い、学校長が認定する。卒業判定会議は、各学生が所属する学科の卒業要件を満たしているかを確認するための資料を用いて行われる。資料は成績のデータベースに基づいて作成されるものであり、従って各科目が適切に認定されていることに基づくものである。

卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページで公表
URL: <http://www.mirai.ac.jp/information/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	松本情報工科専門学校
設置者名	学校法人 未来学舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
財産目録	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
事業報告書	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.mirai.ac.jp/information/pdf/zaimu/mirai-info01.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	自動車整備学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2265 単位時間/単位	921 単位時間 /単位		1344 単位時間 /単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		31人	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>1. 教務部長はシラバスのフォーマットを決めて雛形を学科長に配布する。これほどの学科も共通して記載すべき必須事項を含むものである。</p> <p>2. 学科長はシラバスの作成を担当講師に依頼し、原則として担当講師が記入する。</p> <p>3. 学科長は講師記載のシラバスを確認し、まとめたものを教務部長に提出する。</p> <p>4. 教務部長は各学科のシラバスを確認し公表を行う。</p> <p>現在のシラバスは、次を必須項目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業形態 ・ 概要 ・ 企業連携の有無 ・ 実務経験のある教員科目の該当 ・ 授業計画 ・ 到達目標 ・ 成績評価の方法 ・ 成績評価の基準
成績評価の基準・方法
<p>成績評価において、GPAを用いて成績の分布状況を把握するものとする。</p> <p>GPAスコアは、S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点をポイントとして次の計算式に従って求める。不認定科目はD：0点である。</p> <p>GPAスコア＝各科目の(時間数または単位数×ポイント)の合計 ÷ (履修時間または単位の総数)</p>

従って、GPAスコアは0.0～4.0の数値で表される。
卒業・進級の認定基準
<p>本学の卒業の認定に関する方針は、本学の理念にあげてある、工学を実践する技術者として社会から期待される知識と技術を持ち、どのような職場でも歓迎される人格を兼ね備え、そして卒業要件を満たした者に専門士を授与することである。</p> <p>卒業要件の認定は、原則全職員が参加する卒業判定会議において行い、学校長が認定する。卒業判定会議は、各学生が所属する学科の卒業要件を満たしているかを確認するための資料を用いて行われる。資料は成績のデータベースに基づいて作成されるものであり、従って各科目が適切に認定されていることに基づくものである。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ卒業を認定している。</p>
学修支援等
試験対策用の科目を設けて、問題演習を行う。また未修得者に対しては、放課後などを利用して学習支援を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	10人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 国産車・輸入車ディーラー、民間車検整備工場、中古自動車修理・販売業			
(就職指導内容) 求人企業の紹介、履歴書の書き方指導、面接指導、企業説明会の実施、インターンシップ			
(主な学修成果(資格・検定等)) 二級ガソリン自動車整備士 二級ジーゼル自動車整備士 その他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	1人	3.1%
(中途退学の主な理由) 自己都合による		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 担任と学生部長などの複数の教員で面談を行う。保護者との密な連絡。状況によっては外部カウンセラーの支援を受ける。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1908 単位時間/単位	506 単位時間		1402 単位時間		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		70人	0人	3人	3人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>シラバスの作成過程は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務部長はシラバスのフォーマットを決めて雛形を学科長に配布する。これはどの学科も共通して記載すべき必須事項を含むものである。 2. 学科長はシラバスの作成を担当講師に依頼し、原則として担当講師が記入する。 3. 学科長は講師記載のシラバスを確認し、まとめたものを教務部長に提出する。 4. 教務部長は各学科のシラバスを確認し公表を行う。 <p>現在のシラバスは、次を必須項目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態 ・概要 ・企業連携の有無 ・実務経験のある教員科目の該当 ・授業計画 ・到達目標 ・成績評価の方法 ・成績評価の基準
成績評価の基準・方法
<p>成績評価において、GPAを用いて成績の分布状況を把握するものとする。</p> <p>GPAスコアは、S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点をポイントとして次の計算式に従って求める。不認定科目はD：0点である。</p> $GPAスコア = \frac{\text{各科目の(時間数または単位数} \times \text{ポイント)の合計}}{\text{(履修時間または単位の総数)}}$ <p>従って、GPAスコアは0.0～4.0の数値で表される。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>本学の卒業の認定に関する方針は、本学の理念にあげてある、工学を実践する技術者として社会から期待される知識と技術を持ち、どのような職場でも歓迎される人格を兼ね備え、そして卒業要件を満たした者に専門士を授与することである。</p> <p>卒業要件の認定は、原則全職員が参加する卒業判定会議において行い、学校長が認定する。卒業判定会議は、各学生が所属する学科の卒業要件を満たしているかを確認するための資料を用いて行われる。資料は成績のデータベースに基づいて作成されるものであり、従って各科目が適切に認定されていることに基づくものである。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ卒業を認定している。</p>
学修支援等

試験対策用の授業として科目を設けて、問題演習や操作練習を行う。また、各科目の未修得者に対しては、放課後などを利用して学習支援を行いながら、技能向上を支援する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	1人 (3.3%)	29人 (96.7%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) IT産業、製造業、サービス業			
(就職指導内容) 求人企業の紹介、自己分析作業、一般教養指導、履歴書の書き方指導、面接練習ハローワークなどから外部講師を招いてのセミナー実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) ITパスポート試験を全員受験、基本情報技術者試験は希望者受験、その他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	2人	2.8%
(中途退学の主な理由) 自己都合による		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任と学生部長などの複数の教員で面談を行う。保護者との密な連絡。状況によっては外部カウンセラーの支援を受ける。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	スポーツバイシクル学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1994単位時間/単位	0 単位時間	854 単位時間	1140 単位時間		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		11人	0人	3人	2人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>シラバスの作成過程は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教務部長はシラバスのフォーマットを決めて雛形を学科長に配布する。これはどの学科も共通して記載すべき必須事項を含むものである。 2. 学科長はシラバスの作成を担当講師に依頼し、原則として担当講師が記入する。 3. 学科長は講師記載のシラバスを確認し、まとめたものを教務部長に提出する。 4. 教務部長は各学科のシラバスを確認し公表を行う。 <p>現在のシラバスは、次を必須項目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態 ・概要 ・企業連携の有無 ・実務経験のある教員科目の該当 ・授業計画 ・到達目標 ・成績評価の方法 ・成績評価の基準
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>成績評価において、GPAを用いて成績の分布状況を把握するものとする。</p> <p>GPAスコアは、S：4点、A：3点、B：2点、C：1点、D：0点をポイントとして次の計算式に従って求める。不認定科目はD：0点である。</p> $GPAスコア = \frac{\text{各科目の(時間数または単位数} \times \text{ポイント)の合計}}{\text{履修時間または単位の総数}}$ <p>従って、GPAスコアは0.0～4.0の数値で表される。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>本学の卒業の認定に関する方針は、本学の理念にあげてある、工学を実践する技術者として社会から期待される知識と技術を持ち、どのような職場でも歓迎される人格を兼ね備え、そして卒業要件を満たした者に専門士を授与することである。</p> <p>卒業要件の認定は、原則全職員が参加する卒業判定会議において行い、学校長が認定する。卒業判定会議は、各学生が所属する学科の卒業要件を満たしているかを確認するための資料を用いて行われる。資料は成績のデータベースに基づいて作成されるものであり、従って各科目が適切に認定されていることに基づくものである。</p> <p>卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ卒業を認定している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>試験対策用の科目を設けて、問題演習を行う。また未修得者に対しては、放課後などを利用して学習支援を行う。</p>

※2019年の開学で、今年が完成年度に達するため未記入となる

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 自転車の修理・販売業			
(就職指導内容) 求人企業の紹介、自己分析作業、一般教養指導、履歴書の書き方指導、面接練習 企業から外部講師を招いてのセミナー実施			

(主な学修成果 (資格・検定等)) スポーツバイクメカニク、野外災害救急法、損保募集人資格、その他
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	1人	5.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更の希望による		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任と学生部長、副校長などの複数の教員で面談を行う。保護者との密な連絡。状況によっては外部カウンセラーの支援を受ける。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備学科	160,000 円	580,000 円	430,000 円	施設整備費
情報システム学科	160,000 円	580,000 円	270,000 円	施設整備費
スポーツバイシクル学科	160,000 円	750,000 円	430,000 円	施設整備費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
http://www.mirai.ac.jp/information/pdf/mie-info01.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>主な評価項目は、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務などである。・委員の定数は5名、選出区分は、企業での現役社会人と卒業生で構成される。評価結果の活用方法は、評価結果を踏まえた改善方策を担当部署から立案し、なるべく早い適切な時期に実施する。実施状況や時期はその部署の長が監督し、副校長が責任を負う</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
長野県自動車整備振興会	2020年10月1日～ 2022年9月30日	企業等委員
アースシステム株式会社	2020年10月1日～ 2022年9月30日	企業等委員
NTP トヨタ信州株式会社	2020年10月1日～ 2022年9月30日	企業等委員
株式会社コスモ	2020年10月1日～ 2022年9月30日	企業等委員
卒業生	2019年10月1日～ 2022年9月30日	卒業生等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
http://www.mirai.ac.jp/information/pdf/mie-info02.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

<http://www.mirai.ac.jp/mie/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	
学校名	松本情報工科専門学校
設置者名	学校法人未来学舎

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		14人	12人	14人
内訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
	年間	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。